



出前講座報告書

平成30年10月30日 県南保健福祉事務所

健診で気になる子の支援

乳幼児健康診査では多くの保護者と子どもと話す機会があり、発達面で気になる子がいた場合には早期に適切な支援を行う必要があります。今回は気になる子への年齢を考慮した支援の方法などについて学びました。



🍃 講義・演習の様子

講義では、子どもの発達障害（特にASD、ADHD）の特徴と、親への聞きとり・子どもの観察のポイントについて学びました。乳幼児健康診査で具体的に生活の様子をうかがい、課題を整理し、早期診断・療育につなげることで、子どもの成長・発達につながります。また、保護者へのアドバイスとしては、ほめることの大切さ（ほめ方、効果）を伝えることが必要であることを学びました。



▲講義と演習により、子どもの発達障害について理解を深めました。

～講師紹介～



大阪府立病院機構 大阪母子医療センター
母子保健調査室長／遺伝診療科副部長
植田 紀美子

略歴：自治医科大学卒業、米国ハーバード大学公衆衛生大学院卒業（MPH）、自治医科大学博士取得。大阪府立急性期・総合医療センター小児科、大阪府健康づくり感染症課主査、厚生労働省精神保健福祉課心の健康づくり対策官、米国ハーバード大学公衆衛生大学院研究員（日本学術振興会海外特別研究員）等を経て、大阪府立母子医療センター勤務、現在に至る。

グループワークの様子

グループワークでは、自閉症スペクトラムへの認識について意見交換しました。また、気になる子に関わる上で困っていることについて話し合いました。発達が気になる子へのほめ方を保護者へどのようにアドバイスするかについてグループで考察して発表し共有しました。



▲保健師・助産師・歯科衛生士ほか様々な職種の方が参加されました。

* アンケート集計結果

参加者は23名、アンケート回収は23名でした。

評価項目	そう思う ¹⁾
研修の資料や進行について	
配布資料は適切だった	91%
時間配分は適切だった	78%
進行は適切だった	96%
講義について	
講義内容が理解できた	91%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	96%
学んだことを同僚に伝えたいと思う	83%
話し合いについて	
話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	87%
あなたご自身について	
研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う	65%
研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	65%

* 参加者の声 * (一部抜粋)

- ・ ほめることの大切さを改めて確認しました。
- ・ 様々な職種の方とのグループワークは貴重でした。

* 復習ポイント *

- ・ 親の訴え
- ・ アイコンタクト
- ・ 共同注意
- ・ ほめる意義

*5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

編集後記

子どもの育ちに応じ、かつ保護者の体調や育児状況などを配慮した保健指導はたいへん重要だと改めて思いました。子どもの現状や課題を保護者と共有し、目標を明確にするだけでなく、目標は段階にわけて保護者と子どもが達成できる目標を設定するなど育児支援には工夫が必要であると感じました。本日の学びをいかして、私も保護者と子どもに関わっていこうと思います。（吉田）